事例No.	2027
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	熊本県玉名市

事例区分	DX

タグ	・消防・防災 ・EBPM ・ICT

事例種類	消防・防災

事例内容・タイトル

３Ｄ都市モデルを活用して災害リスクを可視化

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

47 3D都市モデルを活用して災害リスクを可視化【熊本県玉名市】

事業の概要

○ 近年、ますます自然災害が激甚化・頻発化・広域化する中で、災害リスクを把握し、事前に社会全体で災害に備える必要性がますます高まっている。

○ また、防災意識の向上や事前の避難計画の取り決めが重要であることから、高齢者や障がい者、外国人などを含めたあらゆる属性の人々に災害や避難に関する情報をわかりやすく的確に伝える必要がある。

○ そこで、災害に関するさまざまな情報を3D都市モデルに重ね合わせ、災害リスクを三次元かつ時系列で可視化すること等により、災害リスクをわかりやすく直感的に理解でき、住民等の防災意識の向上や避難計画の立案に繋げることができる。

○ さらに、地域の災害リスクに加え、土地利用や建物用途等の都市の多様な情報を重ね合わせることで、より効果的な防災まちづくりを推進することができる。



出典：国土交通省「PLATEAU」

【参考情報①】 人口：6.4万人
関連URL：https://www.milt.go.jp/plateau/

【参考情報②】都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（国土交通省）とは
URL：https://www.milt.go.jp/toshi/daisei/plateau_hojo.html

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



（総務省）取組の経緯・きっかけを教えてください。



玉名市では、令和元年度から令和3年度にかけて、立地適正化計画の検討を行いました。その中で、都市の災害リスクについて、ハザードマップ等で庁内及び庁外に説明しながら、検討を進めていましたが、２Ｄでの災害リスクイメージが難しく、３Ｄでの表示ができないかを模索しました。（玉名市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



令和2年度に国土交通省のProject”PLATEAU”に参画し、3D都市モデルの構築と浸水シミュレーションユースケースを実施しました。
３Ｄでの表示を行うことで、直感的・空間的・具体的なイメージが可能となり、合意形成がスムーズに進みました。
また、令和４年度には、国土交通省の都市空間情報デジタル基盤構築支援事業を活用しました。



事業の近況を教えてください。



令和4年度には、3D都市モデルを活用した災害リスク可視化や避難シミュレーションVR制作を行い、地域における避難誘導の高度化及び地域の防災意識の向上を目標に事業を実施していきます。

★担当：玉名市建設部 都市整備課★

令和3年度事業費　0千円